

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (近畿)	良く なっている	通信会社（社員）	販売量の動き	・営業に力をかけている結果、加入獲得ペースで申込数が増加している。この傾向は、年末くらいまで維持できる。
	やや良く なっている	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・月初から秋物衣料が好調に推移している。北海道物産の催事も日々ぎわっており、顧客の来店状況が良い。長引く不況で、消費マインドの低下も限界にきた感がある。
		百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・食品フロアを改装してから来客数が増加しているが、半年経過してもまだ増加傾向にあり、店としても部門としても増益につながっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・おでんやチキンなどのファストフード類の売上が増加しており、客単価も若干上昇傾向にある。
		家電量販店（経営者）	お客様の様子	・節電型で日本製の高付加価値白物家電の動きが良い。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数が、先月よりも増えている。
		美容室（店員）	単価の動き	・以前まではカットのみで終わっていた客の、カラーやパーマなどの複合メニューが多くなっている。
変わらない	一般小売店〔事務用品〕（経営者）	販売量の動き	・良いニュースが全くない。強いて挙げれば、京都大学教授のノーベル賞受賞である。年末に向けて消費が熱くなる要素がみられない。	
	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	それ以外	・売上は前月比で98%、前年比で90%と数字に悪さが表れている。	
	一般小売店〔衣服〕（経営者）	お客様の様子	・景気が良くないため来客数も増えておらず、残暑が厳しかった影響もあり、秋物の売行きも悪い。	
	一般小売店〔野菜〕（店長）	お客様の様子	・9月から飲食関係が悪い状態のまま、今月に入っても変わらない。	
	一般小売店〔花〕（店員）	競争相手の様子	・近くで同業者の店が開店したが、固定客が流れることもなく、売上にあまり影響がなかった。新しい店は大盛況とはいかなかったと聞いている。	
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・夏以降、売上は一進一退となっている。冬に向けては、エリア間競争の激化で大阪の梅田エリアに客が流れることも予測され、年末にかけての苦戦が予測される。	
	百貨店（売場主任）	単価の動き	・販売量も単価も下がっているが、そう菜や洋菓子の単価の低下が顕著にみられる。	
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・依然として景気が良くなく、雇用の不安定、企業の営業力低下など、国内の景気が不安定であり、景気対策を含めた内需拡大が必要である。海外への投資などを一時的に縮小して、早く国内の景気対策、東日本大震災からの早期復興を行うべきである。	
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・10月中旬まで気温が高かったため、紳士、婦人服部門では冬物衣料の動きが鈍く、苦戦したものの、特選ブランドや食料品は順調に推移し、全体では来客数、売上共に前年の水準を確保できている。9、10月合計でも来客数、売上共に前年と同水準である。	
	百貨店（企画担当）	単価の動き	・気温が低下してきて、冬物商材が動く時期となっているが、持っている服にプラス1点を加えることで、今年らしいファッションになるような小物関係の動きが良く、単価アップにつながっていない。	
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・物産関係の催事を前倒しで実施したが、衣料品の購買に連動しない。	
	百貨店（サービス担当）	販売量の動き	・今月も気温が例年より高く、全体的に秋冬商材の動きが振るわずに苦戦している。また、来客数も前年実績を下回っている。しかし、婦人関連の身の回り品やヤングウェアは好調に推移している。	
	百貨店（商品担当）	販売量の動き	・気温の低下に伴い、ファッション関連商品に動きが出てきているものの、市内で重なった物産催事もやや厳しく、全体として一進一退の状況は変わらない。	
	百貨店（販促担当）	単価の動き	・来客数は引き続き堅調ながら、購買率、客単価共に前年よりも低下している。前年よりも高めで推移している気温により、重衣料の動きも鈍い。購買行動も相変わらず慎重であり、買得品も必要分を吟味して購買されており、増減を判断しにくい状況である。	

スーパー（経営者）	競争相手の様子	・業界ではディスカウンターが好調で既存店も大幅プラスであるが、それに比べて中間層を中心としているスーパーは、総じて既存店売上が前年比でマイナスとなっている。これまで週1回であったポイントセールを2、3回に増やしたり、ディスカウンター並みの特売品を提供しているが、売上は増えず、上半期の決算発表でも関西では2けたの減益が相次いでいる。
スーパー（店長）	単価の動き	・農産品の相場下落のほか、食品の1人当たり買上点数が減少した。また、9月の気温が下がらず、秋物の売行きに遅れが出たことも単価下落の一因となっている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の増加傾向がなかなかみられず、景気回復とはいえない状況である。
スーパー（店長）	来客数の動き	・季節は秋から冬の時期となっているが、気温が下がらず秋物の動きが活発化していない。台風や雨の影響もあり、厳しい状況が続いている。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・消費税の増税決定以降、同業他社の値下げ攻勢や、消費者の低価格志向が高まっている。これに伴う単価の下落や野菜相場の安値、天候要因もあり、売上は低迷している。
スーパー（広報担当）	販売量の動き	・月後半からの気温低下により季節品が動き、売上をけん引しているが、生活必需品については低価格志向が依然強い。
スーパー（販売担当）	お客様の様子	・客の様子をみると、ポイント何倍デーや何割引といった特典のある日や時間帯をよく確認している。特定の店だけに行くのではなく、うまく買い回って利用している傾向がよくみられる。
スーパー（社員）	お客様の様子	・これまでイベント日やチラシの売出し日は、天候が多少悪くても客の来店や買上は活発であった。しかし、先月から今月にかけては、天候の悪い日はたとえイベント日であっても、来客数や買上状況があまり伸びない様子が多くみられる。
コンビニ（店員）	来客数の動き	・近隣の競合店に客が流れ、売上は依然として前年比で10%以上落ちている。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・来店客はほとんどが目的買いで、フリーの客は大変厳しい状況である。従って、目的の物以外は買わずに、そそくさと帰ってしまう。
家電量販店（店長）	単価の動き	・前年は7月のアナログ停波で、8月以降は需要動向が弱まり、前年実績を大きく下回った。今月のレジ客数、客単価共に前年並みで推移しているため、市場動向は悪化している。
家電量販店（店員）	お客様の様子	・接客の際に客の様子をみると、お金がない、生活が苦しいなど、まず安い価格の物からみる傾向にある。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・エコカー補助金の終了による影響か、販売量が目標の80%に満たない状態である。
住関連専門店（店長）	競争相手の様子	・そろそろ年末であるが、業界としての新しい動きや方向性がいまだにない。セール、キャンペーンを乱発しても大きな売上に繋がっていないのは、どの企業も同じである。
その他専門店【医薬品】（経営者）	販売量の動き	・販促活動の一環としてダイレクトメールを四半期に1回程度送っているが、10月上旬に実施した結果、次回のダイレクトメールまで使用する商品をまとめて購入する動きがあり、単価や売上が増加している。
その他専門店【宝石】（経営者）	お客様の様子	・株価がなかなか上がらないままで、円高も変わらず推移している。選挙も近々あると思われるが、現状のままでは客の購買意欲が上昇するめどはない。
その他専門店【食品】（経営者）	販売量の動き	・前年と大きくは変わらない。
その他専門店【スポーツ用品】（経理担当）	販売量の動き	・急激な冷え込みが10月中旬から始まったものの、秋冬物の消費に変化はない。消費者は季節を先取りした購入でなく、その時その時に必要な物を購入するスタイルに変わりつつある。
その他専門店【宝飾品】（販売担当）	お客様の様子	・催事への来場の予約を取っても当日キャンセルなどが多く、購買意欲の低下を感じる。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・特に、週末の動きがとても悪い。会社関係のノミケーション的な使われ方よりも、気の合う者同士での飲食店利用者が増えているようで、中、大宴会のニーズが減っている。

一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・9月の来客数は前年比で99.9%の推移となり、低価格のステーキ店に業態転換した店舗は前年を上回ったほか、客単価も前年比で103%と伸びたが、10月は来客数が95%台に落ち込んでいる。9月の猛暑の反動が10月に出ている。	
スナック(経営者)	来客数の動き	・少しずつ常連客がいつものペースで来店してくれるようになってきている。	
その他飲食 [コーヒー ショップ](店 長)	来客数の動き	・中国人観光客の減少といった記事をみるが、喫茶業においてはその影響もほとんどなく、前年と同じような推移といった感じであり、景気が良いとも悪いとも感じない。	
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・温浴施設の利用客が相変わらず伸び悩み、前年並みになっている。	
観光型旅館(団体役員)	来客数の動き	・災害のあった前年と比較すると、消費単価、宿泊単価は少し良くなっているが、通常の動きであった2年前との比較では98%前後である。	
都市型ホテル (マネージャー)	来客数の動き	・客室部門は月末の国際会議に伴う外国人の宿泊により、月間を通じても好調に推移したが、宴会部門とレストランの高額店舗が振るわず全館的には良くなかった。バイキングレストランの来客数が増加しているなど、高額店舗から安価な方へのシフトが見受けられる。	
タクシー運転手	お客様の様子	・しのぎやすい気候になったためか、人の移動が集中する午前中の客の乗車機会が猛暑時期より減少した。午前中はもっぱら地域の通院手段としての需要に頼っているところであり、極めて心細い現状である。	
通信会社(経営者)	お客様の様子	・受注状況に特に変化がない。	
テーマパーク (職員)	来客数の動き	・海外からの旅行者(特に中国、韓国)が明らかに減ったように感じる。	
パチンコ店(店員)	競争相手の様子	・同業者はどの企業も伸び悩んでいそうである。	
競輪場(職員)	単価の動き	・今月の客単価は9,433円になった。3か月前の客単価は9,622円であり、微減となっている。	
その他レジャー 施設[イベント ホール](職員)	お客様の様子	・入場者数はほとんど変わらず、それに伴うグッズ、レストラン、売店などの売上をみても、ほとんど変わらない状況にある。ただし、入場者数に陰りが出てきているように思われる。	
その他レジャー 施設[飲食・物 販系滞在型施 設](企画担 当)	来客数の動き	・今月は天候要因もあるが観光客の動きは良い。定期的なイベントが定着してきたほか、自然志向が高まっているからだと考えられる。ただし、景気が上向きというほどの勢いは感じられない。	
その他サービス [ビデオ・CD レンタル](エ リア担当)	販売量の動き	・レンタル・書籍関係の売上は前年割れの傾向が続くものの、その他の物販売上は伸張している。	
住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・秋の移動時期を迎えても、さほど需要が伸びている感じがしない。	
住宅販売会社 (従業員)	それ以外	・国内外の諸問題の影響もあり、企業業績は依然として低調気味であり、前向きなオフィス移転の検討は極めて限定的である。	
住宅販売会社 (従業員)	競争相手の様子	・デベロッパーの用地取得意欲が非常に高く、マンション事業用地の価格は非常に高騰している。	
住宅販売会社 (総務担当)	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要も少しみられるが、まだ顕著には表れていない。	
やや悪く なっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・新しい商業施設の開業で、競争が激しくなっている。古い施設は非常に厳しい状況である。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・先行きの経済不安のため消費が低迷している。
	一般小売店 [花](経営 者)	競争相手の様子	・生花業界の小売店が、次々と廃業になっている。大型店の進出といった様々な要因により、悪化の動きはますます広がっている。
	一般小売店[衣 服](経営者)	お客様の様子	・残暑が厳しく、9月後半の商戦が10月にずれ込むと思われたが、10月も大きくは盛り上がりず、在庫を多めに抱えて冬物商戦に入ろうとしている。
	一般小売店[時 計](経営者)	来客数の動き	・夏の自然災害の余波がまだまだ続いているようで、来客数がなかなか伸びない。地域とつながっている店なので、行政の問題といった客の愚痴をよく耳にするなど、景気の回復にはまだまだ遠い。

一般小売店〔珈琲〕（経営者）	販売量の動き	・前年比、前月比共にマイナスとなっている。新規の販路も獲得しているが既存客の目減りが著しい。
一般小売店〔精肉〕（管理担当）	販売量の動き	・10月は神戸で開催される医療関係の学会が多く、外食を中心にホテルへの卸売が全体の数字をけん引している。しかし、小売店舗は月前半の運動会前後は少し盛り上がったが、それ以外はものすごく厳しい状況である。この時期は季節の変化に伴って、焼き焼きの材料が動いてくるはずであるが、今年の利用は非常に少ない。
一般小売店〔菓子〕（経営企画担当）	販売量の動き	・10月現在と7月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均でみると、関西は10月が95.5%で、7月が98.1%、関東は10月が82.4%で、7月が92.8%、中部は10月が90.6%で、7月が91.6%、中国は10月が107.3%で、7月が104.6%となり、各地区合計は10月が93.5%で、7月が96.3%である。先月に引き続き10月も低迷が続いていて、よほど大きな変化がない限り、この状況を脱するのは難しいように感じる。
一般小売店〔菓子〕（営業担当）	販売量の動き	・当月も売上が伸びず、低価格商品の販売ばかりが続いている。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・当月は目標未達の予定であり、先月に引き続き苦戦している。後半は回復傾向にあるものの、前半が気温の影響もあり、厳しい状況であった。天候による外的要因はあるものの、客の購買意欲は明らかに低下しており、不要不急の商品の購入を抑える傾向は一層鮮明となっている。
百貨店（企画担当）	お客様の様子	・来客数は増加傾向にあるが、買上率が低下しており、売上の増加につながっていない。
百貨店（営業担当）	競争相手の様子	・10月末に競合店が新規リニューアルオープンした影響か、優良固定客向けの店外催しが、昨年に比べて大幅に売上を落としている。
百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・なかなか気温も下がらず、秋冬商材の動きが非常に悪い。ただし、ここにきて寒さが肌で感じられるようになったこともあり、今後の動きが期待される。一方、地域的には梅田地区の百貨店の増床オープンによる影響が予測できないほか、12月の気温が高いとの話もあり、予断を許さない。
百貨店（外商担当）	単価の動き	・欧州の信用不安や中国の景気減速が大々的に報じられて、客の購買意欲の減退が感じられる。貴金属などのぜいたく品の受注は少なくなってきているように感じる。
スーパー（経営者）	競争相手の様子	・先月の中ごろに、近隣に年中無休で24時間営業の激安スーパーがオープンしたため、当店の近隣のスーパーが異常な値段での安売りを始めている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・残暑が厳しく、秋物商材の動きが悪い。
スーパー（店長）	販売量の動き	・第2週から非食品の季節品がようやく動き出してきたものの、客の買物が実需に限られ、買上点数が上がってこない。食品も単価は維持できているが、来客数や買上点数は減少している。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数が前年比で96%となり、下げ止まり感が無い。
スーパー（管理担当）	来客数の動き	・来客数が継続して前年を下回っている。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・気温の急激な低下によって、飲料水の売上が前月比で10%減少している。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・気温の低下に伴い、来客数が減っている。たばこや主力の米飯類の販売も不調である。
コンビニ（広告担当）	来客数の動き	・今年の後半に入って、来客数や買上単価の停滞感が昨年よりも強まっている。コンビニ業界だけでなく、全般的に低迷感がある。
衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・暑い日が続いているため、高額なジャケットや商品が動かない。客単価が極端に下がっている。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・景気の悪いニュースが多く、一般的に物を買わなくなってきている。食品以外に手をつけなくなり、それ以外の衣料品や住関連にもお金をかけないので、お金の巡りが悪い。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・エコカー補助金の打ち切りが自動車販売に影響しており、これからの年末商戦にも影響を与える。

乗用車販売店 (営業担当)	来客数の動き	・購入を検討していた客は、既にエコカー補助金を受け取れる期間に購入を済ませている。終了直後の10月に購入せざるを得ない理由がない限り、販売量は落ち込む。来客数は9月の3割減となっている。
乗用車販売店 (販売担当)	来客数の動き	・需要の先食い感があり、チラシ効果も薄い。
乗用車販売店 (営業企画)	単価の動き	・毎年のことであるが、年末に向けて単価が下がってきている。
乗用車販売店 (販売担当)	販売量の動き	・エコカー補助金が終了し、客との補助金に関する会話はなくなったが、担当している客にはあまり影響がない。ただし、今月は決算月の翌月ということで、販売量が減少する傾向にある。
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・週末のファミリー層の来店が減っている。
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・近隣の飲食店が閉店した影響もあるせいか、ランチ営業の来客数が伸びている。一方、夜は商店街にほとんど人通りがない。
一般レストラン (店員)	来客数の動き	・10月中旬より、急に来客数が減っている。
観光型ホテル (経営者)	販売量の動き	・10月は、販売量、単価、来客数のすべてで昨年を下回る見込みである。昨年は京都での団体参拝という特需もあったが、それを差し引いてもかなり勢いがなくなっている。
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・10月は特に団体客の利用が増える時期であるが、今年は少ない。
都市型ホテル (支配人)	販売量の動き	・中国問題で訪日客が減少し、国内旅行者の移動も減少気味である。企業の景気も一向に上向きにならず、宴会の件数、金額も減少傾向である。
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宿泊では、尖閣問題により10月に千人が見込まれていた中国人観光客が激減した。補てん策として国内ビジネス向けに格安のインターネット販売を余儀なくされており、収入が追いつかない。宴会においては、施策的に研修の団体客を取り込んでいるが、会食や宴会の受注がここ3か月ほどは低調である。会社からの経費削減により、会費制の宴会が増加し、居酒屋へ移行してしまっている。
都市型ホテル (総務担当)	来客数の動き	・前年度は、東日本大震災の影響により修学旅行を中心に関西方面への観光客が増加したが、今年度はその反動により、客室稼働率、販売単価共に低下した。また、レストラン利用客の減少も続いている。
都市型ホテル (客室担当)	来客数の動き	・10月後半からの国際会議に伴う宿泊も、期待していたほど予約が入らなかったほか、東南アジアの団体客のキャンセルも重なり、前年よりも大幅に売上が落ちている。
旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・竹島、尖閣諸島問題で中国、韓国、台湾、香港方面の受付がかなり減っている。中国は前年比で10%、韓国は50%、台湾でさえ70%である。全体に与える影響は10%弱程度だが、他方面でどこまで取り戻せるかは不透明である。
旅行代理店(広報担当)	お客様の様子	・尖閣問題等の影響が大きく、近場のアジア方面への申込客がちゅうちょしている。燃油サーチャージの値上げも発表され、より慎重になっている様子である。
タクシー運転手 タクシー運転手	競争相手の様子 来客数の動き	・中国問題の解決が必要となっている。 ・以前であれば最終電車の時間には駅でもかなりの客がいたが、最近は金曜日ですら並んでおらず、近距離の客は節約のために歩いている。
タクシー運転手	お客様の様子	・1時間や2時間に1回乗ってもらえれば良い方で、厳しい。
通信会社(社員)	販売量の動き	・冬モデル発売前での買い控えや、ほかの通信会社への転出も多く、販売が伸びていない。
通信会社(企画担当)	お客様の様子	・大手電機メーカーの経営悪化の影響などが出ている。
観光名所(経理担当)	来客数の動き	・日次売上が前年比で10%マイナスとなることは、これまでもしばしばあったが、このところ15~20%近くのマイナスがみられる。
美容室(店長) その他住宅投資の動向を把握できる者[不動産仲介](経営者)	来客数の動き 競争相手の様子	・予想はしていたが、売上がかなり落ち込んでいる。 ・不動産の取引件数は減少しているように感じる。

	その他住宅〔展示場〕（従業員）	お客様の様子	・住宅展示場の日常消耗品の無料プレゼントに、普段よりも多くの客が並んだ。ひっ迫した家計を反映しているのかもしれない。	
	その他住宅〔情報誌〕（編集者）	お客様の様子	・関西では大手電機メーカーなどの業績悪化などによる消費マインドの低下がみられ、マンションのモデルルームへの来場者数、購入率の低下が、エリアによっては発生し始めている。	
悪く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・例年10月は秋物が動く時期であるが、今年は暑くて売上が伸びないほか、不況のため週休2日の店舗が増えてきている。	
	一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・季節の変わり目であるこの時期だが、秋冬物素材の動きが鈍い。販売量も減っているが、消費者の購買意欲も弱い。	
	一般小売店〔花〕（店長）	それ以外	・中国問題による企業への打撃で今後も厳しくなる。不安材料は減るところが増えるばかりである。	
	百貨店（店長）	来客数の動き	・来客数が今月になって大幅に減少している。それに伴い、売上も大幅に昨年を下回っている。	
	家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・数字の落ち込みが大きい季節ということもあるが、あまりにも集客が落ち込んでいる。	
	一般レストラン（経理担当）	それ以外	・欧州や中国経済の失速に対する懸念のほか、尖閣問題等の影響など、悪い材料には事欠かない。関西経済の状況も悪く、良い話題が全くない。	
	その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	来客数の動き	・10月はプロ野球のクライマックスシリーズや日本シリーズが開催されず、来場者数は少なくなっているが、11～1月には多くのコンサートがあるので、集客増が期待できる。	
企業 動向 関連 (近畿)	良く なっている	-	-	
	やや良く なっている	食料品製造業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の店舗改装などが行われたこともあり、集客率が上がっている。その効果もあり当社の受注量が増えている。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	受注量や販売量の動き	・販促・印刷のメディアでは客の問い合わせが増えていたほか、訪問時の対応の手ごたえが良い。電子書籍、タブレット端末を使ったインターネット経由の販売が動いている。
		金属製品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・稼働日数が多かったこともあるが、直近2～3か月に比べて少し売上が良かった。また、メガソーラー向けの出荷が始まったことも押し上げの要因として挙げられる。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ホームページからの問い合わせが増えてきており、これから忙しくなってくるのが予想される。ただし、すんなりと決まることは少なく、価格交渉が厳しい。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・クリスマスから年末時期に向けての販促関係の受注量が増えてきている。
		その他サービス〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・10月に入り、ようやく秋らしい気温に落ち着いたこともあり、それまで低調に推移したスイーツやそう菜系の店舗の売上が徐々に回復しつつある。
変わらない	化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・販売数量が3か月前の水準に戻っている。	
	プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・内示はあるが注文が出ない。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在のところは受注残が多いので、売上にしばらく変動はない。	
	一般機械器具製造業（設計担当）	受注量や販売量の動き	・受注増の期待は薄く、現状維持が精一杯な状況である。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・不安定な政治経済の影響が出てきている感じで、生産量が下降気味である。	
	電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・依然、量販店には客足が少なく、実売の伸びも鈍化傾向が続いている。	
	輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内の設備投資が低調に推移しており、受注の増加が見込めない。	
	建設業（経営者）	それ以外	・東日本大震災の本格復興はこれからであるが、職種によっては職人不足や賃金の高騰の動きがある。一方、受注価格の競争は激しくなっており、板ばさみ状態である。	

	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・相変わらず、物件の規模、単価共に良くない。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・例年と変わらない動きとなっている。
	輸送業（営業所長）	受注量や販売量の動き	・通常の業務に大きな変化はなく、例年どおりの流れで進行している。
	通信業（管理担当）	それ以外	・変化の要素がない。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の受注が増えてこない。企業間での合見積が多く、価格競争も激しい。
	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・下期に入ったが、広告出稿については大きな変化はみられない。
	コピーサービス業（店長）	受注量や販売量の動き	・年賀状の影響で若干来客数の増加がみられるが、日によっては不安定な状況であるため、まだ楽観視できる状態ではない。
やや悪くなっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・極端ではないが、じわじわと悪くなってきている。例年この時期は、食欲の秋で少しずつ販売量も伸びてくるが、逆に減ってきている。当然、廉価販売は当たり前前の状況で、売上が伸びない。調味料全般が悪いようにも聞いており、中国の影響も少しはある。
	繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・タオル産地の最需要期に入り、徐々に動きも出ているようであるが、本格的な動きではない。
	繊維工業（総務担当）	取引先の様子	・地方での催事にメーカーから出向いて販売をしているが、販売価格は出張経費が取り戻せないような水準になっている。中間問屋の要望で販売価格が通常の売値と変わらないか、低くなるため、経費倒れになっている。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・製品の動きが悪いため、在庫が減少しない。
	金属製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が減少している。部署によっては、定時の仕事量が確保できない。
	電気機械器具製造業（経営者）	それ以外	・唯一、円安に傾きそうなところが、当社には朗報であるが、いつ世界が日本の財政の悪さに目が向けるかが不安である。
	電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・8月までは受注に勢いがあったものの、9月後半から勢いが感じられなくなった。家電関連については小物商品の動きも鈍ってきている。
	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注、売上共に例年に比べて少し落ち込んでいる。
	電気機械器具製造業（企画担当）	取引先の様子	・支払条件の変更が行われている。
	その他製造業【事務用品】（営業担当）	受注量や販売量の動き	・客単価が低下している。
	輸送業（商品管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・この時期はイベントが少なく、荷物の集荷量が少なくなっているため、景気は悪くなっている。
	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・広告の受注は、先月までは幅広いクライアントからあり、売上は前年を超えていたが、最近になって一部のクライアントに偏り、売上の前年超えが厳しくなっている。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・関西圏を中心としたコンサルタントであるが、家電業界は大ピンチであり、周辺の会社も不況に陥っている。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・小売業（食品スーパー）のクライアントの売上が、ここしばらくは前年の水準に近づいていたが、今月に入り再び停滞している。来客数は変わらないが、客単価が下がっている。
	その他サービス【自動車修理】（経営者）	受注量や販売量の動き	・周りからは良い話はなく、悪い話しか聞かれない。
	その他非製造業【機械器具卸】（経営者）	取引先の様子	・得意先で減収減益となる会社が多くなっており、最近受注や設備に関する動きが減少しているために、仕事が減ってきている。
悪くなっている	金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・ユーザーの円高対策で、ここへきて急激に海外調達や輸入品の増加が目立ってきている。

		不動産業（営業担当）	取引先の様子	・神戸から円高で事業所がなくなっていく一方、入ってくる事業所は少ない。事務所の賃料が下がっても、空室率は上がっており、賃貸マンションといった社宅ニーズも少なくなるなど、景気が悪くなっている。	
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込広告が全体的に減少しており、一番多く入る土曜日でさえも減少している。定番のスーパーなど量販店の広告も、全地域に入っていたものが地域を絞り始め、折込1件当たりの数量が落ちている。	
		その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・中国との関係がより不安定となっている。	
雇用関連 (近畿)	良くなっている	-	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・8月以降の求職者数が激減している。大手各社が大きな募集への投資を行っているが、登録者数が確保できない。	
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・2013年4月入社の求人が、昨年度よりも多くなっている。また、毎日のように採用担当者から求人の受付について連絡がある。	
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・今のところは非常に動きが閑散としている。そろそろ年末の忙しさが出てきてもよいが、兆しが全くみえない。	
		人材派遣会社（役員）	雇用形態の様子	・新規需要は増えてはいるものの、条件の厳しい依頼が多く、成約に至る割合が低下しているため、景気回復の感触はない。また、一部の金融機関を中心に派遣から直接雇用への切替えが依然として続いているため、トータルでは可もなく不可もない状況である。	
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・新聞への求人広告の量でいえば、7～9月にかけて低迷し、10月になっても回復傾向が確認できない。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で16%の増加となり、8か月連続で増加した。また、新規卒求人数も高卒、大卒共に前年を上回っている。産業別にみると、卸売業及び派遣業が2か月連続で減少しているが、前月に減少した製造業は増加に転じ、その他の産業に大きな状況の変化はない。尖閣問題については、現時点で大きく影響を受けているという事業所の情報はないものの、中国からの輸入価格の高騰や入荷の遅れが始めているという声もあり、今後の情勢を注視したい。	
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者の滞留が目立つ。	
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・建設部門を中心とした日雇い求人票の未充足状態が続いている。	
		民間職業紹介機関（大学担当）	採用者数の動き	・企業、学生の動きは、2014年3月卒が中心へと変化しつつある。	
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は増加しているが、伸びが鈍化している。	
		やや悪くなっている	人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・対中輸出の減退及び、日中関係の不安定さが影響している。
			新聞社〔求人広告〕（管理担当）	求人数の動き	・中小企業が多い当社取扱いの求人は、9月以降1割ほど落ち込んでいる。過去3か月にはみられなかった結果で、景気の動きに敏感な中小企業求人の動きは、景気が下向いていることを表している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新聞広告の推移をみると、関西の地元企業の動きが鈍い。特に、学校、不動産、流通関係が厳しい。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の動きについては、2か月ぶりに前年同月比で3.9%増加している。	
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・管内の工場で大量解雇が始まっている。	
		民間職業紹介機関（支社長）	求人数の動き	・若干求人数が減少している。	
		民間職業紹介機関（支社長）	採用者数の動き	・応募者の選考基準がやや上昇基調にあり、通過率が悪化している。	
		学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・大阪南港へのコンテナ船の入港が減少しており、積載量も減少している感じがする。また、入国管理局に来ている外国人も減少しているようである。全体的に人や物の動きが減少しているようである。	
	悪くなっている	-	-	-	